



R1会長 レイ・クリンギンスミス

第2790地区ガバナー

織田 吉郎

第5分区ガバナー補佐

佐野 昭雄

第5分区幹事

鈴木 照夫

第5分区地区委員

広報委員会

勝浦RC

千葉 正徳

環境委員会

館山RC

吉田 政紀

R財団寄付金小委員会

鴨川RC

伊藤 正人

勝浦ロータリークラブ

会長

関 一憲

幹事

中村 満

クラブ会報委員長

渡邊 ヒロ子

副委員長

渡邊 昌俊

委員

牧野 利美

前田 安彦

関 正夫

斎藤 麻美子

本日のプログラム

2日(金) 関一憲会長所信発表

2010年7月例会プログラム

9日(金) ガバナー補佐表敬訪問

クラブ協議会活動計画発表

16日(金) クラブ協議会

活動計画発表

23日(金) 新旧役員歓迎迎会

《18:30~ブルーベリーヒル勝浦》

30日(金) 浜口優芽様 帰国報告

2010年8月例会 予定

6日(金) 会員増強

13日(金) 休会

20日(金) ゲスト卓話

CURRENT TOPICS ~ 新旧会長・幹事 バッジ引継ぎの感動シーン ~

先輩に感謝と敬意をこめて『ありがとうございました。お疲れ様でした』
そして、先輩からの優しい言葉『がんばってね!』



関会長へ・・・西尾直前会長から

中村幹事へ・・・高梨直前幹事から

会長挨拶 関一憲会長



皆さんこんにちは。いよいよ新年度が始まりました。心地良い重圧と責任感を感じております。先輩方一人一人の援助・協力をいただきながら、一所懸命がんばっていきます。人生経験・知識・人間性どれをとっても未熟な会長と皆さんからは映ると思いますが、自己研鑽の場として、大きなチャンスととらえております。中村幹事と共に、楽しい中にも素晴らしい活動ができるように努力します。

どうぞ、1年間大きな心で見守っていただき、時には厳しく、時には優しくご指導をお願いいたします。塩田先生に関しましては、とても残念な気持ちでいっぱいです。しっかりと先輩方の意志を受け継ぎ、歴史と伝統を大切にしつつ、勝浦ロータリーが更に発展できるように精一杯行動いたしますので、よろしくお願いいたします。

幹事報告 中村満幹事

本年度も支払い依頼書は幹事[®]がなければ銀行では受付しません。

会費等は会員自ら振り込まないで必ず会計委員を通してください。

地区幹事の月信担当幹事から月信報告の一部取扱変更のお願いとお詫びがありました。寄付者の顔写真は不掲載とさせて頂き、報告書のみ提出。

7月9日(金)：ガバナー補佐の表敬訪問

7月14日(水)：館山の波奈総本店にて第1回第5分区会長・幹事・地区委員合同会議

幹事報告つづき

7月10日(土): 社会奉仕セミナーが開催
 7月24日(土): 国際奉仕セミナー開催
 ホテルグリーンタワー千葉にて(点鐘 AM10:00)
 7月30日(金): インターアクト年次大会開催
 クラブ奉仕委員会より、候補・IT委員会の委員の委
 嘱状が千葉正徳会員に届いています。
 7月のロータリーレートが1ドル=92円
 (国際ロータリー日本事務局より)
 各委員会を開催した時は、委員長は出席した会員名
 を出席委員長に報告してください。

新会員入会式 渡邊昌俊会員よりご紹介

手塚明宏さんです。私とは勝浦青年会議所の先輩にあたる方で、非常に優しい先輩でございます。私とも年が近いので、一緒にロータリーを盛り上げていきたいと思っておりますので、よろしくおねがいします。

新会員挨拶 手塚明宏さん



皆さんこんにちは。手塚と申します。元々、私の祖父がロータリークラブに入っておりました。私が小学校の頃、毎週金曜日、どこに行くのかなとその度思っておりました。元々、私は青年会議所出身ですので、見渡すとほとんどの方が顔見知りの先輩方で安心しました。私も青年会議所を卒業して早十年経ちまして五十歳を迎えました。前々から先輩方にロータリークラブに入らないかとお誘いを頂いておりましたが、青年会議所を終えてすぐにシニアクラブの方へと入りまして、そちらの方で活動しておりましたので、まだ早いと考えておりました。今後は生まれ育った勝浦、地域のために少しでも何かできればと思っておりますので、ご指導のほど宜しくお願い致します。

ニコニコBOX 親睦活動委員会(中村昇委員長)

塩田先生がご逝去されとても寂しく思います。日蓮聖人の言葉『人の命は無常なり』を思い出しました。塩田先生のご冥福をお祈りしながら『ニコニコbox』を致します。

本人誕生日 齋藤豊久 齋藤義典 西尾誠
 配偶者誕生日 渡辺幸男



Guest: 勝浦夷隅青年会議所青少年育成委員会

溝口氏・斉藤氏 / 『サマーキャンプ』活動紹介

今年で十回目になるサマーキャンプを今年の8月8日～9日に開催させていただくことになりました。最近子供たちは、元気がないと感じるところがありますので、ぜひ大自然を体験してもらおう、という企画です。いつもは地元で開催しているのですが、第十回目という記念でもありますので、今年は筑波山に登ってみようということになりました。参加費がきびしく、勝浦ロータリークラブの皆さんにぜひ協賛、ご協力をいただければと思います。子供たちをしっかりと育てたい、自然の中で戯れていた昔に戻って、自然の素晴らしさに気づいてもらいたい、そんな思いで今回サマーキャンプを開催させていただきます。どうぞ宜しくお願いいたします。

第1回理事会報告(中村満幹事)

- 1) 新旧役員歓送迎会開催 日時: 7月28日(金)18:30～
場所: ブルーベリー勝浦
- 2) 7月の例会プログラムについて (1頁参照)
- 3) 『クリーンキャンペーン in 房総』に協賛金 1万円
- 4) クリーンキャンペーンへの参加はMU事業とする。
- 5) 勝浦夷隅青年会議所「サマーキャンプ」に協賛金 3万円
- 6) 御宿花火大会に協賛金 3万円
- 7) 勝浦花火大会に協賛金 5万円
- 8) 勝浦ソフトボール全国大会に補助金 1万円
- 9) 勝浦ロータリークラブのホームページ作成を承認

出席報告(7月2日・金)出席委員会(関勇介委員長)

会員数	出席数	MU数	欠席数	出席率
43名	30名	5名	8名	81.40%

欠席者 浅野玄航 齋藤麻美子 高橋奈緒美 田中 智
 古川範男 水野久美子 本吉幸子 渡辺 保

会長所信発表 関一憲会長

2010年～2011年度勝浦ロータリークラブ会長として、歴史と伝統の重みを感じております。この1年間を、自己研鑽の場として人生の貴重な体験をさせていただくチャンス을いただき、ありがとうございます。

本年度のRI会長レイ・クリンギンスミス氏の提唱されたテーマは **Building Communities Bridging Continents**「地域を育み、大陸をつなぐ」であります。皆さんと共に、楽しく活動したいと思っております。当たり前ですが、物事は楽しいから続けたい。楽しいから積極的に参加したい。そのような心の状態が、一人ひとりの自発的、自律的行動に繋がっていくのだと思います。会員の皆様にとって、勝浦ロータリークラブを、今より更に遣り甲斐を持ち、楽しさがたくさん溢れるクラブになれるように、みんなで一所懸命活動します。具体的行動目標としては **会員増強50名クラブの達成(50周年に向けて)**

新しい空気が入ることにより、組織が活性化します。退会防止も大きな目的です。 **会員の会社がさらに「いい会社」となる。**地域のトップリーダーがRCに集まっています。RCに参加されている企業が、「いい会社」になることによって地域社会が活性化します。さすがロータリーに参加している企業だね、と評価されれば、そこで働く社員さんも誇りが持てるし、地域の人や子供たちのお手本にもなると思います。



仕事を通して、社会貢献に対する意識を更に高める。

会社のリーダーが元気なら、その会社は元気になるでしょう。意識するだけでも違います。元気な会社が集まれば、元気のあまり無い人も自然と元気になるでしょう。価値ある職業を実践することにより、素晴らしいロータリー活動が可能であり、職業を通じて社会貢献できる流れは、とても素晴らしいと考えます。地域を明るくするのは我々ロータリアンではないでしょうか。その前向きな活動こそ社会貢献の実践だと思えます。

RI会長賞 会長賞の獲得は方針達成のための一つの評価です。全員でチャレンジして成果を共有したいと思っています。

先輩より「一人では何もできない。ではなく、一人でも何かができる」という言葉を教えていただきました。小さな変化を大切にしながら、大きな変化につながることを信じ、未来に向かって更に皆で、一步前進する活動にできるよう努力いたします。ロータリーとは立派な人間が集っているのではなく、立派な人間になろうとしている人の集まりだと思っています。素晴らしい人たちに囲まれ、幸せすぎる未熟な私ですが、どうぞよろしくお願ひいたします。

六月二十八日逝去された創立会員塩田敬司様を偲び、

功績を讃えて

血液型検査二十六年

わがクラブの至宝

鈴木 豊三郎

勝浦RCは、今年も例会で教育長や校長に市内の新入学児童全員の血液型検査カードを手渡した。

これは塩田敬司会員(塩田病院院長が「いざという時のために」と血液型の巡回検査を始めて二十六年を数える。血液型は台帳にして、学校と同病院に保管されている。

同病院では学校に派遣する臨床検査技師や看護婦のやりくりが大変だが、父母の「いつまでも続けて」の声に励まされ今日に至っている。(この記事は朝日新聞に大きく掲載された)

塩田会員が勝浦クラブの五代目会長だった昭和四十二年、日本は自家用車時代に突入、交通事故が激増中だった。塩田会員は、同RC社会奉仕委員会が交通安全のために、学童に黄色の帽子を配り、血液型検査の必要性を唱えたのを受け、決意し実行したのがきっかけで、初年度は幼稚園や保育所から小、中学校の全員、一万三千人で、検査には六カ月あまり、職員から悲鳴が出るほど。しかし、これは私の職業奉仕の一環であると心に決め、毎年行おうという信念のもとクラブに迷惑や負担をかけずに続け、今日に至っている」と語った。

なお当クラブは今年三十周年の節目、交換学生も七人目の受け入れとなるが、塩田会員は創立以来、例会皆出席、ホストファミリーの大役も毎回率先して引き受けるなど、わがクラブの「至宝」である。

(ロータリーの友 一九九二年 第四十巻 第十号より抜粋)